

社会の構造を捉え、よりよい社会を考える生徒が育つ社会科学習

－ システム思考を用いた構造理解を通して －

名古屋市立富士中学校教諭 山本 亮介

I 研究のねらい

過疎化の進行を防ぐために1番必要なことは、交通網を整備すること。過疎化の原因は、過疎地域の産業の衰退による収入面の不安や地域の魅力低下である。その問題を解決するため、交通網を整備すると、土地代の安い過疎地域に企業の工場が移転しやすくなり、産業が発展しやすくなる。するとそこに可能性を見いだした若者たちが集まり、さらに産業が発展する。するとさらに人が集まる好循環が生まれる。

これは、中学校地理的分野「日本の諸地域」の単元における生徒Aの記述である。生徒Aは「過疎問題」の解決のために、過疎化の原因を分析した上で、解決策が地域に与える将来的な影響を根拠にしてまとめている。私が考える「社会の構造捉え、よりよい社会を考える生徒」とは、生徒Aのように、社会の構造に目を向けながら課題の原因を捉えた上で、将来への影響や様々な立場を踏まえたよりよい社会について考えることができる生徒である。中央教育審議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、「目の前の事象から解決すべき課題を見だし、(中略)納得解を生み出すこと」が求められていると記し、与えられた課題を考えるだけでなく、自ら課題を見いだす力と、解決策を構想する力を生徒が育むことを重要視している。

岩田一彦氏は「子どもが社会に出たときに本当に必要なことは、それまでに学んだことを活用して、判断することである。(中略)当然、その判断がどのような事態を将来に招くのかの未来予測をしての、合理的判断であることが求められる。(中略)社会科授業で育成する市民的資質の中核は、科学的探究を通して社会に関する構造的知識を習得し、それを生かした価値判断できることである。」と述べ、社会科で育むべき資質の中核は、未来予測をした上での価値判断と定義している。そこで私は、ピーター・センゲが世界的に広めた、「複雑な状況下で変化にもっとも影響を与える構造を見極め、様々な要因のつながりと相互作用を理解することで、全体を理解するためのアプローチ」であるシステム思考に注目した。システム思考の手法を活用し、社会を構造的に捉え、よりよい社会を考える力を育てる本研究は、社会科のねらいである市民的資質の育成に寄与する点で意義深いと考える。

II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立富士中学校 第3学年 40人

2 基本的な考え

主題に迫るために、社会の課題と生徒とのつながりを意識し、課題解決の切実感を生徒がもつ必要がある。そして、社会が抱える課題の複雑な構造を捉えた上で、どこに課題解決の糸口があるのかを他者と話し合うことを通して、将来や様々な立場への影響を考えたよりよい社会を考えることができるように段階的に学習を進める必要があると考えた。そこで、「課題を捉える段階」「社会の構造を分析する段階」「解決を考える段階」という3段階の学習過程を設定した。【資料1】

| 段階 | 主な学習活動 |
|--------------|---|
| 課題を捉える段階 | ① 社会の課題と自身との関連性を捉える。 |
| 社会の構造を分析する段階 | ② 社会の課題を要素に分解するために、ウェビングマップにまとめる。 |
| | ③ ウェビングマップから、因果関係に注目し、「構造分析シート」を作成する。 |
| | ④ 互いのシートを見比べ、内容を修正する。 |
| 解決を考える段階 | ⑤ 「構造分析シート」を根拠にし、理由を明確にした上で学習課題に対する考えをもつ。 |
| | ⑥ 学習課題に対して異なる考えの生徒同士で話し合い、それぞれの考えの共通点を明らかにする。 |
| | ⑦ 話し合いで明らかになった、解決に向けての考え方を基に、構造分析シートを参考にしながら、よりよい社会の実現のために必要な考えをまとめる。 |

【資料1 基本的な学習過程】

(1) 課題を捉える段階

社会で起きている課題に生徒自身が切実感をもって課題を捉えられるために、生徒と課題との関連性が具体的に理解しやすい資料を提示する。そして、生徒が社会の課題を自分事として捉えた課題を学習課題として設定する。

(2) 社会の構造を分析する段階

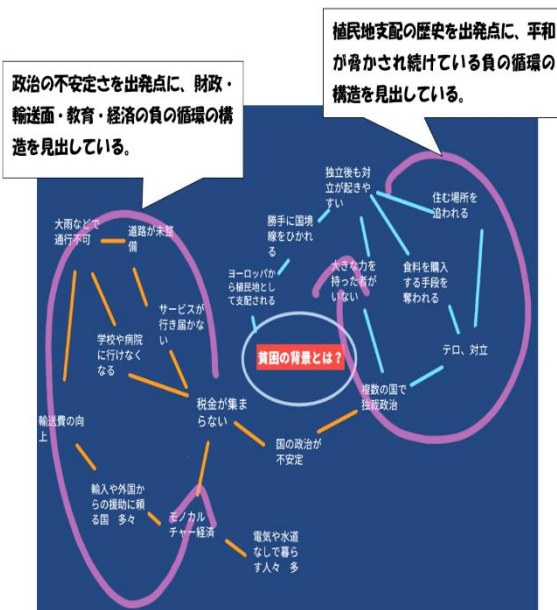
生徒が社会の構造を理解するためには、学習課題に関わる社会問題を要素(キーワード)に分解し、その関連性を可視化することが必要であると考え、「構造分析シート」を活用する【資料2】。「構造分析シート」とは、社会問題が起きている背景を様々な視点から分析し、その関連性を図示するものである。「問題が起きている原因は何か？」を常に自分たちで問い直すことで、社会問題全体を俯瞰し、表面的ではない社会の構造に隠された課題の原因を見いだしやすくなると考えた。

まずは、相関関係・因果関係を考えずに学習課題に関わる社会問題の要素(キーワード)を線で結び、ウェビングマップを作成する。その後、社会問題を引き起こしている因果関係に注目しながら、因果関係を示している箇所に矢印を書き加える。この作業を通して、社会の構造を明らかにしていく。その後、互いの構造分析シートを見比べ、「因果関係は正しいか」「論理の飛躍は起きていないか」「他の視点を見落としていないか」といった視点で意見交換し、互いの構造分析シートを修正することで、より正確に社会の構造を分析することができると考えた。

(3) 解決を考える段階

「社会の構造を分析する段階」で明らかにした社会の構造を踏まえ、学習課題に対しての解決の糸口がどこにあるか、「構造分析シート」の図を根拠としてまとめる活動を設定する。その後、課題解決に向けて必要な考え方を見いだすために、異なる意見をもっている生徒同士の話し合い活動を設定し、意見は違っても共感できる考え方(=課題解決に向けて必要な考え方)に気付くことができるようにする。

最後に、話し合いで明らかになった「よりよい社会」を構想するために必要な考え方をまとめることで、社会の構造に目を向けながら課題の原因を捉えた上で、将来への影響や様々な立場を踏まえたよりよい社会について考えることができる生徒を育てたいと考えた【資料3】。



【資料2 構造分析シート】

学習課題：アフリカの貧困を解決するために必要なことは何か？

構造分析シートを見ると、食料の不安定さが児童の労働につながっている。食糧問題を解決すべきだ。

異なる意見をもつ生徒との話し合い

【他の意見】教育に力を入れることで、現地の人々が自分たちの力で発展ができる。将来の安定した収入や医療の発達につながるはず。

【他の意見】食糧問題や教育が解決しても、交通網が整っていないと、経済的な発展は難しい。将来を考えて、交通網の発展が必要だと思う。

そうか、「現地の人々の自立」や「将来を見据えた発展」が大切だね！

社会の構造に目を向けながら課題の原因を捉えた上で、将来への影響を踏まえたよりよい社会について考える姿

【資料3 解決を考える段階の学習の流れ】

3 「第二次世界大戦と人類への惨禍」「民主政治と政治参加」における学習展開

本研究では、中学校第3学年単元「第二次世界大戦と人類への惨禍」「民主政治と政治参加」を取り上げ、実践に取り組む。

| | | |
|---------------------|--|--|
| <p>単元と目標</p> | <p>単元「第二次世界大戦と人類への惨禍」(7時間)</p> <p>【実践のねらい】</p> <p>日本が太平洋戦争へと向かっていく過程を、「経済状況」「軍部の政治への介入」「外交」「国民感情」等の相互関係に注目して、各種資料で調べ、まとめることで戦争に至った原因を捉える。戦争を回避できなかった構造を理解することを通して、国際平和の在り方を考えることができるようにする。</p> | <p>単元「民主政治と政治参加」(7時間)</p> <p>【実践のねらい】</p> <p>現在の日本の選挙制度の在り方が、公正な世論の形成や、国民一人一人が政治に対する関心を高め、主権者として主体的に政治に参加できる制度であるかどうかを考える。若年層が積極的に政治に関わることができていない構造を理解することを通して、主体的に政治に参加する自覚と、よりよい民主主義の在り方を考えることができるようにする。</p> |
| <p>段階</p> | <p>主な学習活動</p> | |
| <p>課題を捉える段階</p> | <p>① 日本が無謀な戦争に突入した経緯を調べ、学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【学習課題】</p> <p>日本が戦争を回避するためには、どの出来事がターニングポイントだったのか。</p> </div> | <p>① 日本の選挙制度の概要を調べ、若者の消極的な政治参加が生徒自身の将来に与える影響について考えさせ、学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【学習課題】</p> <p>若者の積極的な政治参加を実現するために解決すべき課題は何か。</p> </div> |
| <p>社会の構造を分析する段階</p> | <p>② 日本が太平洋戦争開戦に至った要因を調べ、戦争の原因と考えられるキーワードの関連性をウェビングマップにまとめる。</p> <p>③ ウェビングマップを基に、相関関係の中から因果関係に注目し、「構造分析シート」にまとめる。</p> <p>④ 互いの構造分析シートを比較・検討する学習活動を行い、内容の正しさを吟味する。より正確な構造分析へ修正し、その図を基に、太平洋戦争に至った原因を文章で記述する。</p> <p style="text-align: right;">【検証場面1】</p> | <p>② 若者の政治参加がなかなか実現しない要因を調べ、その原因と考えられるキーワードの関連性をウェビングマップにまとめる。</p> <p>③ ウェビングマップを基に、相関関係の中から因果関係に注目し、「構造分析シート」にまとめる。</p> <p>④ 互いの構造分析シートを比較・検討する学習活動を行い、内容の正しさを吟味する。より正確な構造分析へ修正し、その図を基に、若者の積極的な政治参加が実現しない原因を文章で記述する。</p> <p style="text-align: right;">【検証場面1】</p> |
| <p>解決を考える段階</p> | <p>⑤ 学習課題に対する自分の考えを、構造分析シートを根拠にしてまとめる。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(世界・金融)恐慌 ・五・一五、二・二六事件 ・国際連盟脱退 ・日中戦争 ・日独伊三国同盟 ・南仏印侵攻 </div> <p>⑥ 違う視点を選んだ生徒同士で交流し、互いが納得できる部分(課題解決に向けて必要な考え方)を明らかにする。</p> <p>⑦ 最後に個人で、「戦争を回避し、平和を維持す</p> | <p>⑤ 学習課題に対する自分の考えを、構造分析シートを根拠にしてまとめる。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が政治を身近に感じられないこと ・世代間の不公平が生じている選挙制度 ・若者が政治への無力感を感じていること </div> <p>⑥ 違う視点を選んだ生徒同士で交流し、互いが納得できる部分(課題解決に向けて必要な考え方)を明らかにする。</p> <p>⑦ 最後に個人で、「よりよい民主政治の実現の</p> |

| | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| るために必要なこと」をまとめる。 【検証場面 2】 | ために必要なこと」をまとめる。 【検証場面 2】 |
|-------------------------------------|------------------------------------|

4 記述分析による子どもの実態把握

課題を解決しようとした時、「様々な要素の関連性に注目しているか」「将来を見通して解決しようとしているか」を質問紙への記述から調査する。

また、今起きている、もしくは、起きていた課題に対しての原因を記述させ、様々な視点や立場から社会的事象の構造を理解することができるかを記述内容から調査する。

5 授業研究を通して明らかにしたいこと

- (1) 「課題の構造を分析する段階」において、社会の構造を可視化させることは、社会的事象を理解する上で有効か、記述内容からつかむ。
- (2) 「解決を考える段階」において、社会の構造を根拠として、課題解決の糸口を考え、話し合い活動を設定することは、よりよい社会を考える上で有効か、記述内容からつかむ。

Ⅲ 年間の研究計画

| 月 | 研究・調査・授業研究等 |
|----|--|
| 4 | ○ 実態調査を行う。 |
| 5 | ○ 研究主題の基本的な考え方を基に研究の方向性を定め、研究計画書を作成する。 ○ 第1次授業研究の授業計画書を作成し、検討する。 ○ 長期研修の日程を作成する。 |
| 6 | ○ 第1次授業研究の授業研究実践単元「第二次世界大戦と人類への惨禍」 【検証点1】 「課題の構造を分析する段階」において、社会の構造を可視化させることは、社会的事象を理解する上で有効か、記述内容からつかむ。 【検証点2】 「解決を考える段階」において、社会の構造を根拠として、課題解決の糸口を考え、話し合い活動を設定することは、よりよい社会を考える上で有効か、記述内容からつかむ。 |
| 7 | ○ 第1次授業研究を分析し、基本的な考え方を修正する。 ○ 中間まとめを作成し、今後の研究の方向性を明らかにする。 |
| 8 | ○ 長期研修（A・B日程）研究先進校や先進研究者を訪問し、研究を深める。 ・福山大学教授 小原友行氏 ・兵庫教育大学教授 關浩和氏 ・島根大学教授 加藤寿朗氏 ・静岡大学准教授 山本隆太氏 ・桐蔭学園中学校教諭 長谷川正利氏 ○ 第2次授業研究の授業計画案を作成し、検討する。 |
| 9 | ○ 第2次授業研究単元「民主政治と政治参加」 |
| 10 | 長期研修で学んだことを基に授業改善し、 【検証点1】 【検証点2】 を検証する。 |
| 11 | ○ 第1・2次授業研究の成果や課題、長期研修の成果や今後の研究の課題などを明らかにし、最終のまとめを作成する。 |
| 12 | |
| 1 | ○ 「社会の構造を捉え、よりよい社会を考える生徒が育つ社会科学習」について、1年間の成果や課題をまとめ、発表する。 |
| 2 | |
| 3 | ○ 1年間の研究を反省し、今後の研究の方向付けをする。 |

参考・引用文献 岩田一彦 『社会科固有の授業理論・30の提言—総合的学習との関係を明確にする視点—』

明治図書出版株式会社（2001）